

令和7年度 東京都立若葉総合高等学校 学校経営報告

自己評価基準： 【A】十分に達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

令和7年度 東京都立若葉総合高等学校 学校経営報告	
今年度の教育活動への取組と重点目標	自 己 評 価
<p>【学校運営】</p> <p>(1) 企画調整会議の決定事項の確実な周知と、分掌間の連携、情報共有等を徹底する。</p> <p>(2) 分掌業務において、教員相互のOJTにより教職員のボトム・アップを図るとともに、PDCAサイクルを活用した課題改善により、合理的かつ効率的・効果的な学校運営を行う。</p> <p>(3) 海外学校間交流推進校の施策を活用し、①英語力の強化、②国際交流、③海外派遣の取組等を通して、グローバル人材の育成を図る。(グローバル教育推進委員会)</p>	<p>●教職員の協働体制の確立【B】</p> <p>(1) 企画調整会議の決定事項の共有が、一部の分掌で滞ることがある。分掌間の連携も一部不十分であった。</p> <p>(2) 教諭層の育成は、教員相互のOJTにより、概ね図れた。アンケートによる「Check」はできている。その後の「Action」「Plan」を確実に引き引き継ぐことが課題である。</p> <p>(3) ①1.2年次の英検受験、TGG、多読等英語力の強化を図った。②オンラインによる韓国姉妹校との交流を実施した。③海外研修に向けた実地踏査を実施した。</p>

【教科指導】

- (1) 教科会を活性化し、教員一人一人の授業力向上と観点別評価の共通理解を図る。生徒の個別最適な教授法を追求し、確実な基礎学力の定着と進学指導の充実を図る。
- (2) 教務部による生徒の授業評価（年2回）に基づき、教科指導の検証や改善を行い、指導と評価の一体化を図る。
- (3) 教員相互の授業観察や若手教員の研究協議をとおして、若手教員育成を推進するとともに、「東京都学校教育情報化推進計画」に基づく、デジタル技術を活用した教育を推進し、教科指導や探究的な授業等の充実を図る。
- (4) 成績に課題のある生徒の補習及び大学受験指導に特化した講習や、資格取得を目指す講習等を、教科担当と年次担任が連携して組織的に実施する。
- (5) 学校図書館と教科等が連携し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動等での学校図書館の利活用を推進する。

● 個別最適な学びや協働的な学びの推進【B】

- (1) 教科会による観点別評価の共通理解は概ねできている。生徒の個別最適な指導については、更に追究・検討する必要がある。
- (2) 教務部による授業評価アンケートの周知が不十分であり、教員全員の授業分析ができなかった。
- (3) 教員相互の授業観察や若手研修での研究授業・研究協議は、概ね良好であった。デジタル技術の推進について、教科指導・探究活動での利活用は進んでいる。
- (4) 成績に課題のある生徒の補習及び大学受験指導に特化した講習や、資格取得を目指す講習等は、教員個人の情意によってされており、教科と年次が連携した組織的な実施に至らなかった。
- (5) 学校図書館と教科等が連携し、図書館を活用した授業を年間27回実施した。

<p>【生活指導】</p> <p>(1) 「都立高校生活指導指針」に基づく指導により、全教員が授業規律を徹底し、全校体制で挨拶の励行、身だしなみ、遅刻減少を重点的に指導する。</p> <p>(2) 教室環境の整美、施設・設備の安全確認を適切に行い、学習環境の維持・向上に努める。</p> <p>(3) セーフティ教室（交通安全、SNS、薬物乱用防止、性被害等）を通して、問題行動等の未然防止に向けた指導を計画的に実施する。</p> <p>(4) HR活動や学校行事を通して、人間関係の構築、思考力・判断力、コミュニケーション能力の育成を図り、振り返りの機会を設定し自己理解を深めさせる支援を行う。</p> <p>(5) 体罰及びいじめの根絶に向けた取組を全教職員で行い、サービス事故防止に組織的に対応する。</p>	<p>● 組織的な生活指導【B】</p> <p>(1) 全教員が授業規律を徹底し、朝の挨拶、身だしなみ、遅刻指導等、生活指導部を中心とした組織的な取組ができた。</p> <p>(2) 体育館屋根の修理、通学路の防犯カメラ設置等、学習環境・安全対策の整備を図った。</p> <p>(3) セーフティ教室を年4回実施し、問題行動の未然防止に努めた。自転車ヘルメット着用指導により、90%以上の着用率となり成果があった。</p> <p>(4) 各年次において、行事を通しての人間関係の構築、事後の振り返りなど、自己理解を深める支援ができた。</p> <p>(5) サービス事故防止研修を年3回実施し、組織的に対応できた。</p>
<p>【進路指導・キャリア教育】</p> <p>(1) 上級学校への進学対策として、各種ガイダンス、補習・講習、面接・論文指導等について、各教科が連携し進路指導部を中心とした組織的な指導体制の構築、充実を図る。</p> <p>(2) 「産業社会と人間」、「マイ・プロジェクト」による計画的・系統的なキャリア教育を構築し、組織的な指導のもと、生徒の自己理解の深化、言語能力やプレゼンテーション能力等の向上を図る。</p> <p>(3) 全教員による個別面接やキャリア・カウンセラー面談を通して、進路実現を支援する相談体制を充実させるとともに、進路未決定者に対する指導を徹底する。</p> <p>(4) 生徒に有効な資格を各教科で検討し、組織的・計画的な資格取得、受験を推奨する。</p>	<p>● 進路実現への支援【B】</p> <p>(1) 各教科が夏期講習等を実施した。外部から予備校を導入し、総合型選抜集中講座を開催し、19名の三年次生が受講した。</p> <p>(2) 「産業社会と人間」、「マイ・プロジェクト」は、キャリア教育部を中心に、計画的・組織的な運営ができた。新たな発表形態を構築し、生徒の社会人基礎力向上の変容が見とれた。</p> <p>(3) 全教員における進学始動を実施し、学校推薦型選抜・総合型選抜とも、概ね成果があった。</p> <p>(4) 英語検定、P検、簿記検定については、取得率が向上し、成果があった。</p>

<p>[特別活動]</p> <p>(1) 学校行事（体育祭・若葉祭）について、目的やねらいの明確化と質的向上を図るとともに、熱中症、感染症等の予防に努めるなど、生徒の健康・安全に留意した運営を行う。</p> <p>(2) 部活動の加入率や活動実績の向上、部活動ガイドラインの遵守に努めるとともに、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した、適切な部活動を運営する。</p> <p>(3) 生徒会を中心に、ボランティア活動や地域貢献活動を推奨する。</p> <p>(4) 生徒の芸術活動の充実を図り、協調性やコミュニケーション力、他者理解など豊かな心を育成する。</p>	<p>● 生徒の主体的活動の推進【B】</p> <p>(1) 学校行事の実施について、十分検討を行い、生徒の健康・安全に留意した運営ができた。</p> <p>(2) 部活動の加入率は、横ばいであった。今後、部活動の活性化を強化し、募集倍率の向上につなげたい。</p> <p>(3) 城山文化祭、稲城合同防災訓練、中央図書館への絵画の展示等、生徒会、部活動を中心に、地域貢献活動ができた。</p> <p>(4) 各年次とも芸術鑑賞教室を実施し、豊かな心の醸成を図れた。</p>
<p>[健康・安全指導]</p> <p>(1) 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、保健体育の授業や体育的行事を通して、運動の重要性を理解させ、生徒の体力向上及び健康増進を目指す。</p> <p>(2) 教育相談委員会を中心に、スクール・カウンセラーや都立版エリアネットワーク（特別支援学校）と連携した教育相談機能の充実を図り、特別な支援が必要な生徒に対する組織的な対応を図る。</p> <p>(3) コンディショニング・レポートを活用し、生徒の体調や気持ちの変化を把握するとともに、「SOS の出し方に関する指導」により、適切に教育相談等につなげられるよう対応する。</p> <p>(4) 防災士の資格取得や地域と連携した合同防災訓練等を通じて、実践的な防災意識の涵養を図る。</p>	<p>●心と体の健康と生命を尊重する態度の育成【C】</p> <p>(1) 都の体力・運動能力テストにおいて、全国・東京都の平均を上回る種目0であり、生徒の体力向上・維持が課題である。</p> <p>(2) 教育相談委員会を年9回開催し、スクール・カウンセラーと情報共有しながら、生徒に対する組織的な対応ができた。特別支援学校との連携は、今年度実施できなかった。</p> <p>(3) 長期休業前後での、コンディショニング・レポートの利用率が伸びなかった。別の方法での「SOS の出し方に関する指導」を検討し、適切に教育相談等につなげられるよう対応していく。</p> <p>(4) 防災士の受講者は0であった。</p>

<p>【募集・広報活動】</p> <p>(1) 募集・広報活動は、年間を通じて全教員の協力体制のもと実施する。</p> <p>(2) 中学校及び市教育委員会との連携や出前授業、塾訪問等を積極的に実施し、中学生・保護者に本校の魅力を発信するとともに、総合学科の理解促進に努める。</p> <p>(3) 学校ホームページ、公式 X の適宜更新、学校説明会等で生徒による広報活動など、情報発信の充実を図る。</p> <p>(4) 生徒の作成した学校紹介動画を活用し、学校ホームページや学校説明会等で公開する。</p>	<p>●創意工夫した広報・募集対策【C】</p> <p>(1) 校内で行われる見学会・説明会以外の教員の協力が不十分であった。</p> <p>(2) 教務部の限られた担当によって、出前授業や塾訪問、外部説明会に参加したが、総合学科を周知するまでに結果として、至らなかった。</p> <p>(3) 学校 HP の更新回数が減少したことにより、情報発信の不足が入試倍率に影響したと推測できる。</p> <p>(4) 学校説明会で、生徒が授業で作成した PR 動画を活用したが、過去の作品の再利用であるため、新鮮さに欠けた。</p>
<p>【学校経営】</p> <p>(1) 管理職は、自己の職務行動やマネジメント力について、職場環境の改善や教職員との対話に努め、教職員相互が働きやすい職場風土を醸成する。</p> <p>(2) 「働き方改革実行プログラム」に基づき、計画的な仕事の進め方を推進し、在校等時間の縮減、計画的な年休取得を目指し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p> <p>(3) 1 か月当たりの時間外在校等時間が 80 時間を超える教職員をゼロにするとともに、45 時間を超える教職員の割合を 35% 以下減少させる。</p> <p>(4) 長期休業期間における在宅勤務型テレワークの活用により、教職員の育児・介護がしやすい環境を整備し、多様な働き方の定着を図る。</p>	<p>●効率的・効果的な学校経営の推進【C】</p> <p>(1) 副校長のレビュー結果は、教職員に行程的な結果となったが、校長の評価は低く、学校経営方針に課題が残った。</p> <p>(2) 年間 15 日以上の子休取得は 47% となり、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現には、今後、更なる努力を要する。</p> <p>(3) 働き方改革における在校等時間の縮減は、月 45 時間以上を上回る教職員の割合は 3 割を下回った。超勤 80 時間以上の限られた教員の意識改革が必要である。</p> <p>(4) テレワークの拡大、男性教員の育児休暇の取得等、働きやすい職場環境を整備できた。</p>

【経営企画室】

- (1) 「令和7年度東京都立若葉総合高等学校 予算編成指針」に基づき、西部学校経営支援センターとの連携を基本としながら、自律系経営予算、教育施策予算等、効率的な契約による予算執行を図る。
- (2) 教職員の Well-being の土台となる環境整備に向けた課題を、TEPRO と連携し早期発見、早期解決に向けた対応に努める。
- (3) 経営企画室と管理職・分掌主任が協働して、本校の課題解決を目指す予算編成・執行を実現する。令和7年度の予算執行状況を踏まえ、次年度予算編成指針を11月に提出する。
- (4) 行政系職員の働き方に合わせて、月1日以上 の定時退庁を目指し、残業時間の縮減とライフ・ワーク・バランスの推進を図る。

●学校運営への積極的な参画【B】

- (1) 令和7年度中に配布された臨時予算との対応について、敏速に予算案を立て、効率的にセンター執行率を47.8%まで、引き上げることができた。
- (2) 職場環境や学習環境の整備について、TEPRO と連携し早期解決に向けた対応ができた。
- (3) 予算調整会議での課題整理・解決策の提示等を行い、令和7年度補正予算を編成するとともに、令和8年度予算編成指針を10月までに策定し提出できた。
- (3) 月1日の定時退庁日を定めたが、年間5～6日に留まった。行政系職員の残業時間の縮減に向けた意識改革が必要である。

数値目標		数値結果	評価
学校運営	① 学校満足度 生徒【85%以上】、 保護者【90%以上】 ② 教育目標の実現 保護者【85%以上】	① 生徒【81.0%】、 保護者【92.0%】 ② 保護者【84.0%】	B
教科指導	① 教員の相互授業観察、若手教員研究授業の 参加【年3回以上】 ② 授業、補習・講習等の充実【85%以上】	① 相互授業観察、研究授業参加 【概ね年3回以上達成】 ② 生徒の授業満足度【82.0%】	B
生活指導	① 体罰・いじめの防止、生命に関わる重大事 故防止【0件】 ② 規範意識の醸成遅刻回数【年間延べ4500 回以下、3.5%未満】	① 体罰・いじめ、重大事故報告 【0件】 ② 遅刻回数 【年間延べ8440回、8.3%HR平均】	B
進路指導・ キャリア教育	① 進路決定率(進学浪人含む)【100%】 ② 情報提供や相談活動の満足度 生徒【90%以上】、保護者【85%以上】	① 進路決定率(進学浪人含む)【93.0%】 ② 生徒【89.0%】、保護者【84.0%】	B
特別活動	① 部活動への主体的な参加 部活動加入率【75%以上】 ② 体力・運動能力の向上 東京都統一体力テスト【都平均3種目以上】	① 部活動加入率 【75.8%以上】 ② 東京都統一体力テスト 【都平均以上0種目】	C
募集・ 広報活動	① 広報活動の充実 (1) 教員の参加【年2回以上】 (2) HP・SNSの活用【550回以上】 (3) 中学校訪問【30回】 (4) 塾訪問【250校】 (5) 中学生・保護者来校者数【延2800人以上】 ② 入試倍率の向上 推薦倍率【2.0倍以上】 一般入試倍率【1.2倍以上】	① (1)教員の参加【年2回以上参加】 (2)更新回数 HP・X【480回】 (3)中学校訪問・出前授業・ 外部説明会【18回】 (4)塾訪問【247校】 (5)来校者数【延2282人】 ② 推薦倍率【1.61倍】 一般入試倍率【0.84倍】	C
学校経営	① 一人1台端末の利活用、観点別評価、総 合学科・キャリア教育の理解促進、教育相談 等における校内研修【年3回以上】 ② 教職員のライフ・ワーク・バランスの推進 【超勤45時間以上、35%以下】 年間年休取得【15日以上】	① 校内研修の実施【3回実施】 ② 在校等時間の縮減 【超勤45時間以上、29.6%】 年間年休取得【15日以上47%】	C
経営企画室	① 令和8年度予算編成指針の策定【10月中】 ② 令和7年度センター執行率【47%以上】 ③ 経営企画室の定時退庁日(月1回) 【年12日】	① 令和8年度 予算編成【10月決定】 ② 令和8年度 センター執行率 【47.8%】 ② 定時退庁日数【6日】	B